

令和 8 年度「卒業生の就職先等の進路先の意見聴取等の調査」実施報告書

1 調査の目的

本調査は、本学が学生に対して、在学中に身につけさせたい学力や資質・能力および養成しようとする人材像に照らして、学生の卒業後の進路・就職状況等から、教育の成果や効果を検証することを目的とする。

2 実施概要

本学の卒業生の就職先として主要な業界の企業団体を対象に、卒業生の職場における勤務状況に関するアンケート調査を行った。アンケート調査結果は、学内において、集計・分析のうえで、教務センター等学内関係機関と情報を共有し、就職支援の改善および教育改善に反映させる。

3 実施期間

2026 年 8 月 1 日より 2026 年 8 月 31 日までの 1 か月間

4 調査方法

グーグル社が提供するオンラインアンケートツール「Google フォーム」を利用した「インターネットリサーチ（WEB 調査）」によりデータを収集した。

5 調査（設問）内容

本学が掲げるディプロマ・ポリシーを中心とする機軸に照らして、採用全般、インターンシップ、本学の教育、本学のキャリア支援などの問いを設定した。

6 調査依頼対象企業団体および回答企業団体

本学の卒業生の就職先として継続的に採用実績がある企業団体および本学が強みとする業界を中心に以下の、10 業種（※）14 企業団体を選定し、8 企業団体より（無記名式）回答をえた。

※金融／商社・卸売／IT／広告／観光／航空／飲食／住宅／自動車／物流

7 学内担当

企業団体との連絡、「Google フォーム」によるアンケートの配信および集計・分析については、キャリア支援センターが担当した。

I 企業・団体の属性等の集計結果を表1から表3に示す。

- ・主要な事業（業種）：「建設業」5、「卸売業、小売業」4、「情報通信業」1、「運輸業・郵便業」1、「金融業、保険業」1である。
- ・主要な事業展開エリア：「複数の都道府県に拠点がある（全国展開）」4、「同一都道府県内に複数拠点がある」3、「日本および海外どちらにも事業展開している」1である。
- ・卒業生が配属されている主要な職種：「営業・販売・サービス系職種」7、「事務・管理系職種」2、「運輸・物流・警備系職種」1である。

II 「本学の学生・卒業生に関する質問」の集計結果を表4から表6に示す。

- ・本学の学生および卒業生に優れている特長：「社会人として必要な基礎的な知識および一般的な教養」、「相手の意見や立場の違いを理解し、柔軟な人間関係を築く力」および「自分の考えや意見をわかりやすく相手に伝えるコミュニケーション力」がそれぞれ3、次いで「自己管理および主体性」1である。
- ・補うべき点や今後強化すべき点：「自分の考えや意見をわかりやすく相手に伝えるコミュニケーション力」2、次いで「多面的な視点、批判的思考力および課題解決力」1である。
- ・卒業までに身につけてほしいリテラシー等：「主体性・チャレンジ精神・継続力」および「協調性とコミュニケーション力」が最も多くそれぞれ4、次いで「社会的な常識とビジネスマナー」3、「基礎学力と論理的思考力」および「情報発信力・文章表現力・デジタルリテラシー」がそれぞれ2である。

III 「採用全般に関する質問」の集計結果を表7から表8に示す。

- ・採用時に重視する能力：「対話・協働を通じて相互理解し、周囲を巻き込む力」が最も多く7、次いで「変化や困難に冷静に対応する力」および「多角的に物事を捉え、情報を活用する力」がそれぞれ2、「課題を見極め、解決に導く思考力」1である。その他（記述式）として「主体性や責任を持ち、やり抜く力」、「応募職種によって変わるが、第一はコミュニケーション能力」がある。
- ・学生への採用情報の伝達手段：8企業団体ともに「自社の採用ホームページ・自社主催の説明会」、「就職情報Webサイト」、「大学が主催する合同企業説明会」および「大学以外の民間企業が主催する合同企業説明会」である。「公共機関・その他の媒体」は2である。

IV 「インターンシップに関する質問」の集計結果を表9から表13に示す。

- ・実施状況：7企業団体で実施している。実施していない企業団体は1である。
- ・目的：「採用に向けた母集団形成」が最も多く7、次いで「学生の業種および職種への理解の深化」6、「企業認知度の向上と広報活動の一環」5、「大学との連携強化」3である。
- ・時期：4月および5月を除き、6月以降3月まで実施時期が分散している。
- ・対象学年：「3年生」が最も多いが、ほぼ全学年が対象である。その他（記述式）として「あくまで大学3年生がメインの対象学年ですが、他学年も参加可能としています」がある。
- ・期間（日数）：「5日以上」が最も多い一方で3日以内の短期型もある。

V 「本学の教育に関する質問」の集計結果を表14および表15に示す。

- ・本学の教育課程において今後特により力を入れるべきリテラシー：「言語運用能力」が最も多く6、次いで「論理的思考力・課題発見・解決力」5、「コミュニケーション・プレゼンテーション能力」4、「ICTスキルと情報活用力」3、「数理的推論力・データ分析力」2である。
- ・本学のキャリア支援において今後特に取り組むべき業務：「学内での企業説明会」が最も多く4、次いで「卒業生と在学者との懇親会やイベント」3などである。

※調査結果より、北海商科大学卒業生のキャリア形成や大学教育の効果に関して以下の点が示唆された。

・本学の学生・卒業生に関する評価：本学学生の柔軟な人間関係を築く力が評価されている一方で、コミュニケーション力に関しては、その評価がわかれるところである。さらに、卒業までに、主体性や論理的思考力、協調性とコミュニケーション力、さらには、社会常識・ビジネスマナーなど、広く多くのリテラシーやスキルが望まれている。

・採用に関する傾向：対話・協働を通じて相互理解し、周囲を巻き込む力が最も重視されている一方で、対応力や思考力など広い適正も評価対象である。情報提供手段としては、自社ホームページのみならず、WEBサイト、説明会など多くの機会が活用されている。

・インターンシップの実態：ほとんどの企業団体で実施しており、採用の母集団形成、学生の業種・職種理解および広報活動など広い採用支援が目的である。夏季前より翌年3月まで幅広い時期に行われ、対象は3年生を中心にほぼ全学年におよぶ。期間は短期型が多いが5日以上もある。

・本学教育に対する意見：今後強化すべきは、読解力をはじめとする言語運用能力、論理的思考力・課題発見解決力を中心に、広く多くの資質・能力が求められる。キャリア支援では、学内説明会が重視されている。

・総じて、企業団体は本学学生の柔軟な対人関係能力を高く評価する一方で、自身の考えを相手に伝える力の強化が課題である。採用やインターンシップでは多面的な思考力と実践的な対応力が重視され、教育課程においては論理的思考やICTスキルの伸長が期待されている。キャリア支援面では企業団体との接点拡大が強く求められている。

以上

9 集計結果

【企業・団体の属性等に関する質問】Q1 貴社・団体（またはグループ全体）の主要な事業（業種）を以下より選択してください。（複数選択可）※区分は総務省「日本標準産業分類」による

表1

項目	実数	割合
A 農業、林業		
B 漁業		
C 鉱業、採石業、砂利採取業		
D 建設業	5	62.5
E 製造業		
F 電気・ガス・熱供給・水道業		
G 情報通信業	1	12.5
H 運輸業、郵便業	1	12.5
I 卸売業、小売業	4	50.0
J 金融業、保険業	1	12.5
K 不動産業、物品賃貸業		
合計	8	—

注) 実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象企業団体数を示す。さらに「割合」は調査対象8企業団体に対する比率である。

【企業・団体の属性等に関する質問】Q2 貴社・団体（またはグループ全体）の主要な事業展開エリアを以下より選択してください。

表2

項目	実数	割合
同一都道府県内に複数拠点がある	3	37.5
日本および海外どちらにも事業展開をしている	1	12.5
複数の都道府県に拠点がある（全国展開）	4	50.0
合計	8	100.0

【企業・団体の属性等に関する質問】Q3 本学卒業生が配属されている主要な職種を以下より選択してください。複数の場合は該当するものをすべて選択してください。（複数選択可）※ 区分は厚生労働省編職業分類を参考に集約

表3

項目	実数	割合
事務・管理系職種（一般事務、人事、経理、管理職など）	2	25.0
営業・販売・サービス系職種（営業職、販売職、接客、飲食、観光サービスなど）	7	87.5
福祉・医療・保育系職種（介護職、看護師、保育士、福祉支援など）		
教育・専門職系職種（教員、インストラクター、法務、会計士、文化芸術関連など）		
製造・技術・研究系職種（製造業、技術者、エンジニア、研究開発など）		
建設・土木・電気工事系職種（建設作業員、電気工事士、土木技術者など）		
運輸・物流・警備系職種（ドライバー、配送、機械運転、警備員、清掃など）	1	12.5
農林水産（農業、漁業、林業）		
分類不能		
合計	8	—

注）実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象企業団体数を示す。さらに「割合」は調査対象8企業団体に対する比率である。

【本学の学生・卒業生に関する質問】Q4 本学の学生および卒業生に優れている特長があればおきかせください。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表4

項目	実数	割合
社会人として必要な基礎的な知識および一般的な教養	3	37.5
自己管理および主体性	1	12.5
多面的な視点、批判的思考力および課題解決力		
相手の意見や立場の違いを理解し、柔軟な人間関係を築く力	3	37.5
自分の考えや意見をわかりやすく相手に伝えるコミュニケーション力	3	37.5
特になし	1	12.5
合計	8	—

注) 実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象企業団体数を示す。さらに「割合」は調査対象8企業団体に対する比率である。

【本学の学生・卒業生に関する質問】Q5 本学の学生や卒業生について、貴社から見て補うべき点や今後強化すべき点がございましたら忌憚のなくご指摘ください。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表5

項目	実数	割合
社会人として必要な基礎的な知識および一般的な教養		
自己管理および主体性		
多面的な視点、批判的思考力および課題解決力	1	12.5
相手の意見や立場の違いを理解し、柔軟な人間関係を築く力		
自分の考えや意見をわかりやすく相手に伝えるコミュニケーション力	2	25.0
特になし	5	62.5
合計	8	—

注) 実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象企業団体数を示す。さらに「割合」は調査対象8企業団体に対する比率である。

【本学の学生・卒業生に関する質問】Q6 本学の学生に対して、卒業までに身につけてほしいリテラシー等は何ですか？
該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表6

項目	実数	割合
社会的な常識とビジネスマナー	3	37.5
基礎学力と論理的思考力	2	25.0
主体性・チャレンジ精神・継続力	4	50.0
協調性とコミュニケーション力	4	50.0
情報発信力・文章表現力・デジタルリテラシー	2	25.0
特になし		
その他(学業・学生生活を通じた社会全般への興味、それらの自分自身との関連性の意識)	1	12.5
合計	8	—

注) 実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象企業団体数を示す。さらに「割合」は調査対象8企業団体に対する比率である。

【採用全般に関する質問】Q7 採用時に重視する能力は何ですか？該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表7

項目	実数	割合
変化や困難に冷静に対応する力	2	25.0
課題を見極め、解決に導く思考力	1	12.5
多角的に物事を捉え、情報を活用する力	2	25.0
対話・協働を通じて相互理解し、周囲を巻き込む力	7	87.5
その他（主体性や責任を持ち、やり抜く力）	1	12.5
その他（応募職種によって変わるが、第一はコミュニケーション能力）	1	12.5
合計	8	—

注) 実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象企業団体数を示す。さらに「割合」は調査対象8企業団体に対する比率である。

【採用全般に関する質問】 Q8 学生への採用情報の伝達手段はなんですか。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表8

項目	実数	割合
自社の採用ホームページ・自社主催の説明会	8	100.0
就職情報Webサイト（〇〇ナビ）	8	100.0
大学が主催する合同企業説明会	8	100.0
大学以外の民間企業が主催する合同企業説明会	8	100.0
公共機関・その他の媒体（例：ハローワーク、新聞など）	2	25.0
合計	8	－

注）実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象企業団体数を示す。さらに「割合」は調査対象8企業団体に対する比率である。

【インターンシップに関する質問】 Q9 インターンシップは実施していますか。

表9

項目	実数	割合
実施している	7	87.5
実施していない	1	12.5
合計	8	100.0

【インターンシップに関する質問】 Q10 インターンシップを実施する目的はなんですか。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表10

項目	実数	割合
企業認知度の向上と広報活動の一環	5	62.5
採用に向けた母集団形成	7	87.5
学生の業種および職種への理解の深化	6	75.0
大学との連携強化	3	37.5
合計	8	—

注）実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象企業団体数を示す。さらに「割合」は調査対象8企業団体に対する比率である。

【インターンシップに関する質問】 Q11 実施時期はいつですか。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表11

項目	実数	割合
6月および7月	1	12.5
8月	7	87.5
9月	7	87.5
10月	5	62.5
11月	4	50.0
12月	4	50.0
1月～3月	3	37.5
合計	8	—

注）実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象企業団体数を示す。さらに「割合」は調査対象8企業団体に対する比率である。

【インターンシップに関する質問】 Q12 対象学年をおこたえください。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表12

項目	実数	割合
1年生	4	50.0
2年生	4	50.0
3年生	7	87.5
4年生		
大学院	1	12.5
その他（あくまで大学3年生がメインの対象学年ですが、他学年も参加可能としています）	1	12.5
合計	8	－

注）実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象企業団体数を示す。さらに「割合」は調査対象8企業団体に対する比率である。

【インターンシップに関する質問】 Q13 実施期間（日数）をおこたえください。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表13

項目	実数	割合
1日	6	75.0
2日	3	37.5
3日	1	12.5
4日		
5日以上	4	50.0
合計	8	－

注）実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象企業団体数を示す。さらに「割合」は調査対象8企業団体に対する比率である。

【本学の教育に関する質問】Q14 本学の教育課程において、今後特により力を入れるべきリテラシーがあればおこたえください。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表14

項目	実数	割合
論理的思考力・課題発見・解決力（問題を発見し、論理的に解決策を導く力）	5	62.5
数理的推論力・データ分析力（数学的思考やデータを用いた分析力）	2	25.0
言語運用能力（読解力、文章力、外国語の習得を含む）	6	75.0
コミュニケーション・プレゼンテーション能力（対話力や発表力など、他者に伝える力）	4	50.0
ICTスキルと情報活用力（デジタル技術を活用した情報の収集・発信・処理能力）	3	37.5
合計	8	－

注）実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象企業団体数を示す。さらに「割合」は調査対象8企業団体に対する比率である。

【本学のキャリア支援に関する質問】Q15 本学のキャリア支援において、今後特に取り組むべき業務があればおこたえください。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表15

項目	実数	割合
学内での企業説明会	4	50.0
卒業生と在学者との懇親会やイベント	3	37.5
企業や自治体と大学のコラボレーション（包括連携/地域連携/産官学連携）		
企業と大学との共同研究	1	12.5
特になし	1	12.5
合計	8	－

注）実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象企業団体数を示す。さらに「割合」は調査対象8企業団体に対する比率である。